

1. 教育の責任

・国際日本学部の 3 つのディプロマポリシーに基づき、特に下記の 2 つに重点を置いて教育に取り組んでいる。

①日本および世界の多様な文化の尊重、理解、受容を試み、幅広い視野と教養を身に着ける。

②国際社会や地域社会で発生する諸問題に対して、高い問題解決能力を備え、多文化共生社会において多様な人びとと協働して課題に取り組むことができる。

2. 教育の理念

・建学の精神である“STUDY FOR LIFE（生涯にわたる、人生のための学び）”に基づき、「豊かな教養と専門的学術、旺盛な自己開発精神、優れた国際感覚及び問題解決能力を備えた人材を育成し、地域の教育・研究および生涯学習の中心として、地域社会・国際社会に貢献することを目的とする」という教育の目的を踏まえる。また専門分野である文化・社会人類学の視座をもとに、豊かな多文化共生社会、まちづくりの実現に向けて他者を理解し、価値観を尊重した中で社会に貢献できる人材を育成することを目標としている。

3. 教育の方法

2023 年度から国際日本学部の新メジャーとして「多文化共生メジャー」が設置された。その授業科目の 1 つである「多文化共生社会を生きる」を例に挙げて、教育の方法を説明する。

【教育の目的と目標】

①多文化共生社会を理解する上で必要な基本的な概念について説明できるようになる。

②多文化共生社会の現状について、具体的な事例をあげて説明できるようになる。

③今後の多文化共生社会の展望について、自らの意見を述べるようになる。

【授業のスタイル・工夫】

・各回授業の前半は講義、後半はテーマの課題についてまずは個人で調査や考えをまとめ、その後 4～6 名ずつのグループで自分の意見を発表し、グループでディスカッションを行う。他者理解のためには、身近な学生同士の他者理解から始めることとグループの協働作業が重要であることを強調する。グルーピングは、15 回の授業で 5 回程度シャッフルし、同学部の学生同志、他学部との混合、留学生をグループに一人ずつ入れるなどを配慮し、できるだけ多くの学生とディスカッションできるようにする。

・多文化共生に関する政府・自治体・民間・ボランティアなどの取り組みをグループごとに分担して調査し、課題や問題点を抽出する。そして大学生として今、できること、将来に向けての提案を共に考える。

・また、在住外国人支援を実施している NPO 法人の関係者をゲストスピーカーとして迎えることで、学生が支援内容を身近なものとして捉えて貰えるように工夫する。

・各回の 90 分授業で、学生自身が何を吸収し、何を考えたか、どのような成長があったかを毎回確認する授業を心掛けている。そのため毎回の授業後に 400 字程度のリフレクションシートを記入してもらう。1 回の授業で学んだことを自分の言葉で書くことを通して授業内容の定着化をはかると共に、自己の成長過程を認識できるように工夫している。

4. 教育の成果

・毎回の授業後のリフレクションシートでは、学生は多文化共生社会について、身近な問題として理解し、日本の現状と問題点・課題などを自分たちの問題として理解できたという好意的な意見が多かった。

特にグループディスカッションでは、同じ学部や他学部の学生、留学生との意見交換で、他者の意見を知ることができたことが有意義であったという意見が多かった。

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：国際日本学部 名前：野波 侑里 作成日：2025年1月8日

5. 改善への努力と今後の目標

- ・学生にとって授業に参加している留学生のインタビューが非常に参考になったようであった。次年度以降は、本学の他の留学生の協力を得ることも考えたい。
- ・またグループディスカッションで他の学生の意見を聞いたことが良かったという意見が多かったため、アクティブラーニングやファシリテーションの技法をさらに学び生かしたい。グループディスカッションを苦手と思っている学生も含め、学生同士が意見交換しやすい雰囲気づくり、意見をまとめるステップを工夫したワークシートの作成などを通して、毎回の授業が楽しく、学生自身が意味のある90分であったと気づきを実感できるような授業を目指したい。

【添付資料】

- ・「多文化共生社会を生きる」シラバス

開講年度	2024	開講学期	秋学期
科目コード	ZG0351	授業コード	45236
科目名	多文化共生社会を生きる	開講曜日・時限	水曜4限
担当教員名【代表】	野波 侑里 (Yuri Nonami)		
担当教員			
授業形態	講義		
単位数	2単位		
メジャー名	該当メジャーは、入学年度の履修ガイドを確認すること。		

授業の目的	・多文化共生、多様性の理解のために必要な文化、社会、民族、宗教、ジェンダー、アイデンティティなどの基本的な概念について説明できるようになる。 ・多文化共生社会の現状について、具体的な事例をあげて説明できるようになる。 ・今後の多文化共生社会の展望について、自らの意見を述べることができるようになる。
-------	---

授業の内容	
①能力開発メソッド	ディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成
②課題レポート等	確認テスト・レポート作成
③授業概要	本授業では、最初に多様な文化・社会について様々な観点から学ぶ。次に、多文化共生社会の現状について問題点を含めて学び、さらに今後の多文化共生社会を生きる上で重要な視点について学生同士でディスカッションをしながら学ぶ。
授業時間外学習	授業の振り返り、次回に使用する資料の精読

授業計画				
	目的	主題	概要	授業時間外学習
01	知識／能力	オリエンテーション	授業のオリエンテーション(シラバス説明、教員紹介など)	・リフレクション ・次回テーマに関する資料の精読
02	知識／能力	多文化共生社会とは	日本における多文化共生社会の確立、多様性理解の必要性について学ぶ	・リフレクション ・次回テーマに関する資料の精読
03	知識／能力	文化の理解	文化の定義、文化の多様性について学ぶ	・リフレクション ・次回テーマに関する資料の精読
04	知識／能力	民族と国家と文化の理解	民族と国家と文化の関係について学ぶ	・リフレクション ・次回テーマに関する資料の精読
05	知識／能力	個人と社会の理解	個人とアイデンティティ、社会、家族、家族をこえたつながりについて学ぶ	・リフレクション ・次回テーマに関する資料の精読
06	知識／能力	宗教の理解	宗教の定義、多様性について学ぶ	・リフレクション ・次回テーマに関する資料の精読
07	知識／能力	グローバリゼーションとトランスナショナリズムの理解	グローバリゼーションの中の個人と文化、トランスナショナル時代の世界観について学ぶ	・リフレクション ・前半授業の復習
08	知識／能力	前半授業のまとめ	前半授業のまとめ	・中間試験 ・リフレクション ・次回テーマに関する資料の精読
09	知識／能力	日本の多文化共生社会の理解	在住外国人をゲストに迎え、日本の現状の課題などについてインタビューを実施する	・リフレクション ・次回テーマに関する資料の精読

10	知識／能力	多文化共生の取り組み(I)	日本の多文化共生社会について行政の取り組みを事例から学ぶ	・リフレクション ・次回テーマに関する資料の精読			
11	知識／能力	多文化共生の取り組み(II)	ゲストスピーカーを招き、日本の多文化共生コミュニティの事例から学ぶ	・リフレクション ・次回テーマに関する資料の精読			
12	知識／能力	多文化共生の取り組み(III)	医療の多様性の視点から日本の医療における多文化共生の取り組みについて考える	・リフレクション ・次回テーマに関する資料の精読			
13	知識／能力	多文化共生社会を考える(I)	未来の多文化共生社会について、現在の課題を知り、社会としてできることを考える	・リフレクション ・次回テーマに関する資料の精読			
14	知識／能力	多文化共生社会を考える(II)	未来の多文化共生社会について、個人でできることを考える	・リフレクション ・まとめ試験の準備			
15	知識／能力	まとめ	まとめ試験	・リフレクション ・授業の総括			
到達目標と学習成果							
①知識レベル		・文化、社会、民族、家族、宗教、ジェンダー等の多様性について具体例を挙げて説明できる ・日本の多文化共生社会の現状について具体例を挙げて説明できる					
②能力レベル		・文化、社会、宗教の多様性について理解した上で、自分の意見を述べるができる ・多文化共生社会の現状を理解した上で、今後の多文化共生社会について自らの意見、展望をを述べるができる					
C-PLATS(Level)到達基準							
コミュニケーション	2	プレゼンテーション	2	リーダーシップ	2	行動力	2
創造力	3	計画力	2	論理的思考力	2	分析力	3
チームワーク力	3	社会的責任	2				
成績評価の基準と方法		・授業への積極的な参加:20% ・毎回の予習、復習課題の提出状況:30% ・中間、期末のまとめ試験:50% F評価:中間、まとめ試験において多文化共生社会の基本的な概念について説明できていない。毎回の予習、復習課題を提出していない。授業時のグループディスカッションに参加していない。 D評価:中間、期末のまとめ試験において多文化共生社会の基本的な概念を説明できる。毎回の予習、復習課題を1/3以上提出している。 授業時のグループディスカッションに参加している。 C評価:中間、期末のまとめ試験において多文化共生社会の基本的な概念を説明できる。毎回の予習、復習課題を半数以上提出している。 授業時のグループディスカッションにおいて、積極的に参加している。 B評価:中間、期末のまとめ試験においてが多文化共生社会の基本的な概念を説明でき、今後の多文化共生社会について自らの考えを説明できる。毎回の予習、復習課題を10回以上提出し、かつ授業に積極的に参加している。 授業時のグループディスカッションにおいて、他者に貢献している。 A評価:中間、期末のまとめ試験において多文化共生社会の基本的な概念を説明でき、今後の多文化共生社会について論理的、独創的な考えを説明できる。毎回の予習、復習課題を全て提出し、かつ授業に積極的に参加している。 授業時のグループディスカッションにおいて、リーダーシップを発揮し、他者に貢献している。					
教科書		毎回の授業で資料を提示					
参考図書		授業中に紹介する					
備考							